

三原をきれいに心もきれいに

私に通っている木原小学校では、町をきれいにする活動を行っています。その中の一つに、年に一度行われる、クリーン大作戦があります。それは、自分たちでゴミぶくろをもつていき、通学路におちているゴミをとり、きれいにする活動です。

私は、この活動をする中で、道におちているゴミがへるとともに、ポイすてをする人がへると思います。私たちの活動を見た人は自分を見直し、ポイすてはだめだということを再確認することでポイすてをする人がいずれ、いなくなりま

す。ポイすてがなくなるためには、自分からゴミひろいを実行するべきです。クリーン大作戦は、学校の行事であり、先生に言われてやっています。しかし、クリーン大作戦以外でも、ゴミひろいをするので、ポイすて防止につながります。

私は、木原小で行っている活動が三原にもつながり、三原の道も人の心もきれいになることを望んでいます。そして、外国の方やほかの地域の方にも三原はきれいな町だと思っただけのようなところをつくりたいです。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第33回 —

獅子太鼓でつなぐ幸崎の心

私が住む幸崎にはたくさん誇れるものがありますが、その中でも地域の人たちと最も深い関わりを感じるのが郷土芸能「獅子太鼓」です。獅子太鼓は、毎年三月に行われる能地春祭りでも披露しています。祭りの中心となる青年団の演奏は息もぴったりで、とても迫力があります。私たちが幸崎中学校の生徒たちで運営している「郷土芸能班」の演奏も負けてはいません。郷土芸能班は、獅子太鼓という幸崎の素晴らしい伝統を残していこうという目的で、四十年以上に本校で立ち上げられました。部活動と兼部しながら、週一回の活動時間を有効に使い、部長を中心に三年生が後輩たちを指導しながら練習に励んでいます。そうやって私たちは「獅子太鼓」を長い間受け継ぎ、守ってきました。

昨年も能地春祭り以外でも様々なイベントに参加し、演奏を披露しましたが、特に印象深かったのは三原城築城四百五十年行事の締めくくりとなるクロージング・セレモニーに出演したことです。市を挙げての大きな式典で、多くの観客を前に発表するのはとても緊張しました。でも、幸崎から見に来てくださった青年団の方々が、「良かったよ!」と言ってくださったり、「獅子太鼓を見て感動しました」と観客の方が声をかけてくださったりしたので、本当にうれしかったです。大きな達成感と、郷土芸能班でやってきて良かったという満足感を心から感じる事ができました。そして、こうやって「獅子太鼓」は受け継がれていくのだとも感じました。また私たちが長い間受け継ぎ、守ってきた郷土芸能班の活動が、郷土の伝統を守る役割を担っていることを誇らしく思いました。この活動を通して多くの方々と協力し、地域との絆を深めることにもつながっています。この春もつて私は卒業しますが、きっとこの思いを後輩たちがつないでいってくれると思っています。

